



公益財団法人日本ユニセフ協会協定地域組織
佐賀県ユニセフ協会通信 uniwish7号 (2013年2月)

佐賀県佐賀市水ヶ江4丁目2番2号
(電話・FAX) 0952-28-2077
(業務時間) 月・火・木・金 10:00~15:00

E-mail unicef-saga@ams.odn.ne.jp
ホームページ <http://www.saga-unicef.jp/>
FBページ <http://www.facebook.com/unicef.saga>



シリア危機 ユニセフ 子どもたちへの支援を加速

【2013年1月16日 東京発】



© UNICEF/NYHQ2012-1725/A1-Masri

激しさを増す戦闘から、いまだに国外避難する人々の波が止まらないシリア。シリアや周辺の国々は、寒波や大雨、雪などの悪天候で、非常に厳しい状況に陥っています。隣国ヨルダンでは、今月に入ってから平均で1日あたり1,000人あまりが避難し続けており、その多くは、雨や雪で濡れた衣類の他、ほとんど何も持たないまま、凍えながら不自由な避難生活を送っています。この紛争の影響を受けている子どもの数は、シリア国内外で、確認されているだけでもおよそ210万人。厳しい寒さの中で、子どもたちの安全と命を守る支援が急がれています。

ユニセフは、シリア国内とシリアからの避難民を受け入れている周辺の国々において展開してきた人道支援活動を、さらに加速させています。冬を乗り切るための衣類や防寒具の配布や感染症を予防するための予防接種、衛生環境を保つための衛生用品の配布やトイレの設置、安全な水の提供などに加え、故郷を追われた子どもたちへの心のケアや教育の支援も行っています。これらの支援を今後半年間続けるための資金として、ユニセフは、国際社会からの支援を呼びかけてきました（1月11日現在、総額1億9,500万米ドル）。

これを受け、日本国内においてユニセフの民間募金・寄付の窓口となっている日本ユニセフ協会は、シリアとその周辺国におけるユニセフの活動を支えるための『シリア緊急募金』の受付を開始しました。

日々変化するザータリキャンプの状況－最前線からの報告

【2013年1月31日 ヨルダン発】

日々変化する、ヨルダン北部の砂漠地帯に広がるザータリ難民キャンプの状況。現場で活動に当たっているユニセフのコナディ・コン緊急支援専門官も、そのめまぐるしい変化を感じています。

コナディ専門官は、現在、このキャンプでのユニセフの支援活動の責任者として、ほぼ毎日ザータリ難民キャンプを訪れ、約7万の難民の方々や、キャンプのあちこちで支援活動にあたっているユニセフのパートナー団体のスタッフと多くの時間を過ごしています。コナディ専門官は、キャンプマネージャーであると同時に、人々の間で問題が発生した時の仲裁役や“外交官”としての役割も果たさなくてはなりません。



© UNICEF Jordan/2013/Youngmeyer
ヨルダン北部に設置されているザータリ難民キャンプで、シリア難民の男性と、キャンプ内の問題について話し合うコナディ・コン ユニセフ緊急支援専門家。

難民の大量流入

今日、ザータリ難民キャンプが直面している大きな問題のひとつは、シリアから避難を余儀なくされた大量の難民の流入です。今年1月だけでも、約3万人がシリアからヨルダンへの避難を余儀なくされました。この数は、昨年12月に同じくシリアからヨルダンに避難を強いられた難民の2倍に及びます。

子どもたちをはじめシリアを逃れてきた人々は、国境を越えると、バスで難民キャンプの受付に案内されます。ここで、難民登録を受け、仮住まいとなるテントや、毛布、食料といった本当に基本的な物資を受け取ります。

シリアからの避難の旅路は、危険で困難に満ちたものです。中には、砲弾や爆発物の破片などで怪我をする人も少なくありません。多くの人が、戦闘を避けるため、夜中に徒歩で避難します。国境に辿り着くまでは何時間も、あるいは何日もかかる場合もあります。

コナディ専門官は、この難民キャンプを熟知しています。彼がキャンプの中を歩いていると、子どもたちが近寄ってきます。また、何かの問題についての相談や助言を求めて彼の元にやってくる人もいます。飲料水やトイレ、衛生用品、子ども用の防寒着の提供の他、予防接種、教育や子どもの保護といった分野でも、パートナーと共に活動しているユニセフは、難民キャンプで大きな役割を果たしているのです。

この日、コナディ専門官は、長期にわたりキャンプでの生活を余儀なくされている年配のご夫婦を訪ねました。「ちょっと話をしに行きました。何か困っていることがないか、私たちができる事がないか確認するためにね」（コナディ専門官）

コナディ専門官が訪れた80代後半の男性は、妻や孫を含む約60人の親類縁者と一緒に、半年前にシリアから避難してきたと言います。ヨルダンまでは、徒歩で4時間かかりました。この男性のテントには、家財道具らしいものはほとんどありません。それでも、彼は、コナディ専門官にお茶を飲んでいくよう強く勧めました。この男性一家は、日中の寒さは気にならないものの、夜は非常に冷え込むと言います。毛布の数と、暖房用の燃料が不足するのではと心配していました。

困窮する支援物資

次にコナディ専門官が訪れたのは、最近避難してきたばかりの人々が暮らす区画。この区画に設置された共同シャワー室には、ガス湯沸かし器が取り付けられています。この湯沸かし器は、既に48箇所の共同シャワー室に設置され、ザータリ難民キャンプで生活する1万4,000人以上の人々にお湯を提供しています。また、新たな難民の流入が続く中、水飲み場やトイレの不足も大きな課題になっているため、それらの設備の建設も、急ピッチで進められています。



○ UNICEF Jordan/2013/Youngmeyer
ザータリ難民キャンプに新たに追加されたテントが並ぶ地域。

もう一つの問題は、年末から続いた豪雨と大雪のためにキャンプ地内で洪水が広がり、多くのテントが水没したことです。ユニセフは、水浸しになってしまった衣類等に代わる緊急用の防寒着と布団を配布。水没で“住居”を失った多くの人々は、仮設学校用のテントに避難しましたが、数週間が経過した今もその学校用テントは、“住居”としての使用が続いている状態です。このため、数千人の子どもたちが待ち望んでいる学校の再開にも、影響が出る事が懸念されています。

コナディ専門官は、学校用テントでの生活を強いられている人々が“戻れる”場所と、彼らが洪水で失ったりした基本的な生活用品を確保するため、パートナー団体と策を協議。その後、実際に学校用テントで避難生活を送っている人々と面会しました。既に他の場所に移動している人々もいますが、多くは、いまだに机や椅子を積み上げて生活スペースを確保し、教室内で生活しています。

コナディ専門官は、この難民キャンプで避難生活を送っている多くの人々が、学校を、勉強するだけの場所ではなく、キャンプ全体に“安定”を与えてくれる場所として認識されていると話します。

【資料提供：日本ユニセフ協会】

日本ユニセフ協会は、地震および津波により被災した岩手県・宮城県・福島県の自治体からの要請を受け、保育園や幼稚園等園舎、教育・保健関連施設の再建（建設）や大規模修繕支援を実施してまいりましたが、最後に残された2つの児童福祉施設の完成を祝う落成式が、1月19日（土）に宮城県気仙沼市で、翌20日（日）に同じ宮城県の亶理町で開催されました。

例年になく寒波が押し寄せている被災地。式前日の18日も、宮城県沿岸部には珍しいほどの大雪に見舞われていましたが、それがまるで嘘だったように晴れ上がった青空の下で開催された両落成式には、気仙沼市の峯浦康宏副市長や亶理町の齋藤邦男町長をはじめ、園の先生方や子どもたち、地域の方々が参加されました。

未来を担う子どもたちのために

このほど気仙沼に完成したのは、地域の子どもたちが広く使用できる施設としての「子育て支援センター」「気仙沼の復興はこれから長い道のりを歩いていきますが、子どもたちにはもうこれ以上我慢を強いることなく、自分の思いを思う存分膨らませる時間と場所を提供していくことが私たち幼児保育に携わるものの役割であるというふうに考えています」式典に出席された葦の芽幼稚園 小野寺純一園長は、震災からこれまでの約2年の月日を振り返りながら、「この施設がこの役割を十分果たし気仙沼の未来を担う子どもたちの健やかな成長に寄与していけるよう私たちは力を尽くしていきたいと考えております」と、新しいスタートへの抱負を述べられました。



気仙沼：子育て支援センター



亶理町：児童福祉施設



葦の芽幼稚園：小野寺純一園長

亶理町に完成した児童福祉施設は、震災で園舎を流失した吉田保育所に通っていた子どもたちや近隣の子どもたちが利用できる施設として建設されました。吉田保育所の鈴木由美子先生も、「震災の日、隣接した長瀬小学校の助けを借りて子どもたちは逃げました」と、当時のことを振り返ります。

しかし、「子どもたちの心の中に震災は怖かった、恐ろしかったという記憶があると思うんですが、これからは前向きにこの新しい施設で毎日元気に過ごしていけたらと思っています」と、新しい建物が、地域が“前に進む”原動力の一つとして活躍することを期待されていました。

地域に根付く建物を

みなさまのご支援で進めてきた幼稚園・保育園等の再建支援プロジェクトは、この2棟の完成をもってひとまず完了しました。なかでも、恒久的に使える建物として建設した幼稚園・保育園園舎等の再建支援にあたっては、以下の3本の柱となる基本理念と、5つの基本方針のもと、各案件を担当された建設関係者の方々に、事業を進めていただきました。

《基本理念》

- ①子どもの参画、子ども中心の環境づくり ②あたたかみとぬくもりを感じる空間づくり
- ③自然、地域とのつながり

《5つの基本方針》

- ①声を聞く、ともにつくる参加型の建設プロジェクト ②幼児の環境教育における学びの森
- ③安全安心な子育て空間 ④地域の風土、文化との調和 ⑤環境に配慮した共生型建築

先生方をはじめ施設を利用される方々と何度も相談を重ねて仕上げた設計。被災木など、地元の建材を使用した建築。子どもたちを温かく包む園舎。震災を境に様々な影響を受けた子どもたちの未来を支える、そして地元を支える力として、それぞれの園舎、施設は、地域の方と多くの時間を重ねていきます。

予防接種を広めることで、
もっと多くの子どもの命を守りたい！



國枝美佳さん
くにえだみか

西・中央アフリカ地域事務所
ポリオ予防接種 モニタリング・評価担当
開発コミュニケーションスペシャリスト



住民30万人に医者 1 人

ユニセフでの私の仕事は、セネガルを拠点に西・中央アフリカ24カ国で予防接種のニーズを調べ、子どもの命を一人でも多く守るため、地域と保健行政をつなげていくことです。

この地域は乳幼児の死亡率が世界で最も高く、7人中1人が5歳まで生きることができません。なかでも、2012年に大干ばつが襲ったサヘル地域では、日頃から栄養不良で病気にかかりやすくなっていた子どもたちが、コレラやはしか、肺炎などで命を奪われています。西・中央アフリカ地域では他にも、洪水や紛争など20以上の緊急事態が起きていて、感染症が子どもたちの命を脅かしています。しかも、医者の数は住民30万人に1人というような状況で、病気になっても治療を受けられる子どもはごくわずかです。

予防接種があれば助かる命

医療の行き届かない地域で、子どもたちの命綱となっているのが、ユニセフの予防接種です。パートナー機関と協力して、各町や村、避難民キャンプなどにいる乳幼児の数を調べてワクチンを用意し、保冷箱に詰めて子どもたちのもとへ向かいます。接種が終わった子どもの小指には紫色のインクを付け、指に色のない子どもを探していきます。2012年に入って、サヘル地域だけでも160万人以上にはしかの予防接種を実施、病気への抵抗力をつけるビタミンAも投与しました。

地域の人たちの声を反映して

数百もの民族が暮らすこの地域では、予防接種を知らせるポスターも複数の言語で作ります。文字を読めない人が多いため、ラジオも使って呼びかけます。

それでもすべての人に伝えるには十分ではありません。ギニアのスラム街で予防接種を行なった際、通りがかった子ども連れの母親に「無料で予防接種をしていますよ」と声をかけると、「知らなかった」と急いで会場へと走って行きました。その姿を見て、「知ってさえいれば、子どもを連れてくる母親はもっといる。助けられる命がもっとある」と感じ、これまで以上に地域の人たちと話し合い、子どもたちを守っていこうと決意を新たにしました。

ワクチンの調達や政府への働きかけなど、ここアフリカでの毎日の活動が、世界中すべての子どもの命が等しく守られる日につながることを信じて、今日も全力で活動しています。





おいしそうに給食を食べる宮城県の小学校の子どもたち



ミルクの配膳の列に並ぶ子どもたち

©日本ユニセフ協会

1月24日から30日までは「全国学校給食週間」です。戦時中に中断していた学校給食が1946年より再開されたことを記念し制定されました。

ここでは、ユニセフと給食の歴史をご紹介します。「ユニセフと給食」と言うと、戦後日本の子どもたちに届けられた粉ミルク(脱脂粉乳)を思い浮かべる方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

ユニセフによる粉ミルクの支援は1949年10月1日、横浜港に粉ミルク約600トン(児童約6万人分)が到着したことに始まりました。たんぱく質、カルシウム、ビタミンなど、栄養豊富な粉ミルク。しかし、粉ミルクだけでは、十分な栄養は摂れません。ユニセフでは粉ミルクを給食に導入することを促進すると同時に、「栄養基準」を設定して、政府配給の味噌、砂糖、油脂、小麦粉に自治体からの野菜や魚などを加えて、子どもが1回の食事で500～600キロカロリー以上摂れるよう、給食内容を配布先の保育所や学校などで検討してもらいました。

また、当時の日本人は粉ミルクを飲み慣れていませんでした。うまく消化しきれずに下痢を起こしたりするケースもあったようです(悪性ではなく、乳糖の利用度が低かったためにおこったもの)。その味もなじみがなかったので、保育所も学校も、いろいろな工夫をして子どもたちに飲ませたようです。

1951年に厚生省児童局より発行された「給食指導要領」には、粉ミルクを使用した献立例が掲載されており、その一例として、「ドーナツ」があります。

作り方は、「小麦粉の中ににんじんをすりおろし、りんごを小さく切って入れる。これを水溶きしておいたミルクで溶き適宜の大きさにちぎり、粉をまぶして熱した油の中で揚げる。熱いうちに砂糖をまぶす」とあります。こうした様々な工夫が、子どもたちの成長につながっていったのですね。

第1回のユニセフ支援物資を受け取り、給食を開始した東京都のある小学校では、政府配給の小麦粉を使ってパンまで焼かれるようになりました。そのためのパン焼き窯が学校に作られたそうです。このように、すべての支援をユニセフが提供するのではなく、支援を受ける政府が可能な限りのことをする。こうした活動方針は、現在のユニセフ支援活動にも見られるものです。それが「自立」への道を開くことになるからです。



© 日本ユニセフ協会

東日本大震災発生直後から、日本ユニセフ協会は、栄養分野の支援の一つとして、子どもたちの学校給食を再開させるための支援も行いました。地震・津波の被害により、被災地の多くの給食センターも影響を受けました。食材を集めることも、調理をすることも大変な状態の中、多くの人の努力によって給食が再開されました。宮城県女川町では給食室の修繕、宮城県石巻市では給食食器と給食センター3ヶ所への食器洗浄機や消毒保管庫などの設備支援を行いました。



© UNICEF/INDA2012-00254/
PRASHANTH VISHWANATHAN

インドの小学校で給食を食べる子どもたち。国民食のカレー、本場では手いただきます。各国の給食は、その国の食事文化も表しています。学校給食は、ただ栄養を補給するというだけではなく、食習慣や健康についての知識、そして何よりも先生や友だちと心を通わせる時間を提供する、大切な場。途上国では、1日1回の学校給食が子どもたちにとって命をつなぐための手段になることもあります。「食べる」という行為を通じて、子どもたちは心身ともに健やかに成長することができます。世界中のどこにおいても、子どもたちが健やかに成長できるように、ユニセフは支援活動を行っています。

【資料提供：日本ユニセフ協会】

～活動詳報～

Hand Hand in Hand Hand

第34回ユニセフ ハンド・イン・ハンド募金キャンペーン

「ワクチンで、守ろう小さな命。」

2012年度のハンド・イン・ハンド街頭募金は、12月9日、16日、22日の3日間にわたり11会場で実施しました。天山おろしの冷たい風の日、お日さまのぬくもりを感じる暖かい日、小雨の日と色々な空模様でした。

園児から小・中学生、引率の皆様、高校生、大学生、ボーイスカウト、カブスカウト、地域のボランティア団体の皆様、高齢者団体の皆様等々、総勢240人にもものぼるボランティアの皆様が参加してくださいました。ボランティアの皆様は、「ユニセフ募金にご協力をお願いしま～す!」「12円でポリオのワクチン1回分をおくることができま～す!」「ありがとうございます!」と元気な声で協力を呼びかけました。ご多用のなか駆けつけてくださったボランティアの皆様、募金箱に温かいお気持ちをお寄せいただいた多くの皆様、快く会場をご提供くださった企業の皆様、本当にありがとうございました。

11月と12月の2ヶ月間にわたって行いました『第34回ユニセフ ハンド・イン・ハンド募金』の総額は、個人の皆様、団体・企業の皆様からのご協力を合わせて、2,480,000円にも達しましたことをご報告します。ありがとうございました。

12月9日(日)

ゆめタウン佐賀

ボーイスカウト佐賀第1団カブ隊・ビーバー隊の皆さん、ボーイスカウト佐賀第5団の皆さん、そして保護者の方々など、総勢49名の方がボランティアとしてご参加くださり、ゆめタウン佐賀会場は冷たい風を吹き飛ばすほど活気に満ち溢れていました。ゆめタウン佐賀会場にてご協力いただいた募金は48,058円でした。



イオンスーパーセンター佐賀店

福岡県柳川市内の小中学生・高校生・保護者の方など30名のボランティアさんが参加くださり、大きな声で「ポリオワクチンをおくために、よろしくお願しま～す!」とお客様に呼び掛けました。活動終了後、子どもたちから「募金箱にお金をいれてもらうことができうれしかったです。」などの声が聞かれました。イオンスーパーセンター佐賀店での募金は34,543円でした。



イオンモール佐賀大和会場

大和会場（イオンモール佐賀大和、ホームワイド佐賀大和、ベスト電器佐賀大和）では、大和中学校・城北中学校の生徒さんたちなど60名のボランティアさんが参加くださり、元気な声でお買物のお客様に「世界の子どもたちにワクチンをおくりましょう!」と呼びかけました。中学生のみなさんの熱い思いがお客様の心に届き、61,805円もの募金をお預かりしました。



バニーズ三日月店

街頭募金活動には、三日月中学校生徒会の皆さんら総勢17名の参加がありました。休むことなく順番に一人ずつ募金を呼びかけたおかげで、駐車場の端の方からお金を握りしめて走ってきたお子さんや、車を止めて運転席から募金の手を差し伸べてくださる方もあり、多くの方からたくさんのご協力をいただきました。北風は少しの間休憩し、お日様が味方してくれ身も心も温かい気持ちでいっぱいになりました。バニーズ三日月店での募金は14,251円でした。



12月16日(日)

佐賀玉屋デパート前

参加人数は総勢17名人でした。毎年参加していただいている循誘ボランティアの方々、同じ顔触れがそろっていくそう嬉しいですね。もう5年連続参加の小学生は、募金の呼びかけ方がとっても上手でした。また目の不自由な方が、私たちの声のする方へ白杖を使いながら近づいてこられ募金とともに暖かい声をかけてくださいました。

佐賀玉屋前での募金は39,504円でした。



12月22日(土)

イオン上峰ショッピングセンター

上峰町立上峰小学校ボランティア委員会のみなさんと先生方がご参加くださいました。ボランティアさんたちは元気な声で「ユニセフ募金にご協力をお願いしま〜す!」「100円で5回分のはしかのワクチンをおくることができま〜す!」とお客様に呼び掛けました。

イオン上峰ショッピングセンターでの募金は33,014円でした。



12月22日(土)

鹿島会場

鹿島会場は、鹿島市のホームセンターユートク、スーパーモリナガ、ララベルの三ヶ所で実施しました。ときおり冷たい小雨の降るなか、ボーイスカウト鹿島第一団のみなさま、関係者のみなさまが「ユニセフ募金にご協力ください!」と、元気な声で呼びかけました。

「雨の中をご苦労さんね。頑張ってください。」と声をかけてご協力くださるお客様もいらっしゃいました。鹿島3会場での募金は44,004円でした。



- 11月9日(金) 募金贈呈 佐賀大学文化教育学部附属小学校5年2組より(事務所にて)



佐賀大学文化教育学部附属小学校5年2組では、エコ係のみなさんが募金箱を作り、朝の会と帰りの会で、クラスのみなさんに募金の協力を呼びかけました。10月16日から25日までの10日間で集まった募金は10,491円となり、本日代表の方3名と担任の先生が事務所に届けてくださいました。

当協会からは経口補水塩、ビタミンAを紹介し、また、水の大切さを伝えるとともに、ネパールの水がめを運ぶ体験をしていただきました。

- 11月14日(水) ユニセフ出前授業 神崎市放課後子ども教室ドリームパーク
神崎市立仁比山小学校(1年~6年、23人)「水とトイレと子どものいのち」

- 11月14日(水) ユニセフ出前授業 福岡県柳川市立矢ヶ部小学校



「たんじょう日があるということ、名前があるということ」

矢ヶ部小学校では毎年ユニセフを通じて世界の子どもたちのことを学ぶユニセフ学習会を実施しています。今年は、世界の子どもたちの「出生登録」について学び、出生登録によって守られる子どもの権利について様々な事例をもとに考えました。

- 11月20日(火) ユニセフ出前授業 佐賀市立諸富南小学校 「みんなが幸せになるために」



諸富南小学校では4年生45人が総合的学習の時間(サザンタイム)に「みんなが幸せになるために」という活動名で学習に取り組んでいます。今回は、「子どもたちをとりまく世界の情報を知り、自分たちにできることを考える」という目的で、ユニセフを通して「水」と「栄養」を例に、生きるために最低限必要なものにも困っている子どもたちがいることを知り、自分との関わりについて考えました。

- 11月21日(水) ユニセフ出前授業 神崎市放課後子ども教室ドリームパーク
神崎市神崎小学校そら組「水とトイレと子どものいのち」

- 11月25日(日) ユニセフ出前授業 みやき町立北茂安小学校「人々とのつながりをふかめよう」

北茂安小学校では4年生91人が総合的学習の時間に「人々とのつながりをふかめよう」という活動名で学習に取り組んでいます。1学期には、郷土の地名「北茂安」に縁の深い治水事業に取り組み「水の神様」と呼ばれている成富兵庫茂安や、地域の水事情について調べました。それを受けて2学期には世界の色々な国の水事情を知り、そこに暮らす子どもたちのことを知りたいとユニセフ学習をしました。

- 12月7日(金) 募金贈呈 大川市立道海島小学校より(道海島小学校)

- 12月18日(火) 募金贈呈 小城市立三日月小学校より(三日月小学校)

- 12月21日(火) 募金贈呈 柳川市立豊原小学校より(豊原小学校)

- 12月21日(金) 募金贈呈 佐賀市立城西中学校より(事務所)

- 1月11日(金) イオン「幸せの黄色いキャンペーン」に参加(イオン佐賀大和店)

- 1月12日(土) ユニセフ募金活動&ユニセフ・カードとギフト頒布(かんざき櫛田の市)

- 1月17日(木) ユニセフ出前授業 三潞郡大木町立大溝小学校6年生
「ユニセフとわたしたちにできること」

- 2月2日(土) かんざき櫛田の市にて

ユニセフ募金活動&ユニセフ・カードとギフト頒布

- 2月13日(水) ユニセフ出前授業 神崎市放課後子ども教室ドリームパーク

神崎市立千代田東部小学校ゆめ組「平和について考えよう」

- 2月15日(金) 募金贈呈・ユニセフ学習 弘堂国際学園より(事務所にて)

- 2月10日(日) / 17日(日) 全日本ハンドボールリーグ佐賀大会会場にて
募金&カードとギフト頒布(神崎中央公園体育館)

- 2月20日(水) ユニセフ出前授業 神崎市放課後子ども教室ドリームパーク
神崎市立仁比山小学校(ゆめ組)「水とトイレと子どものいのち」





ユニセフって なあに？



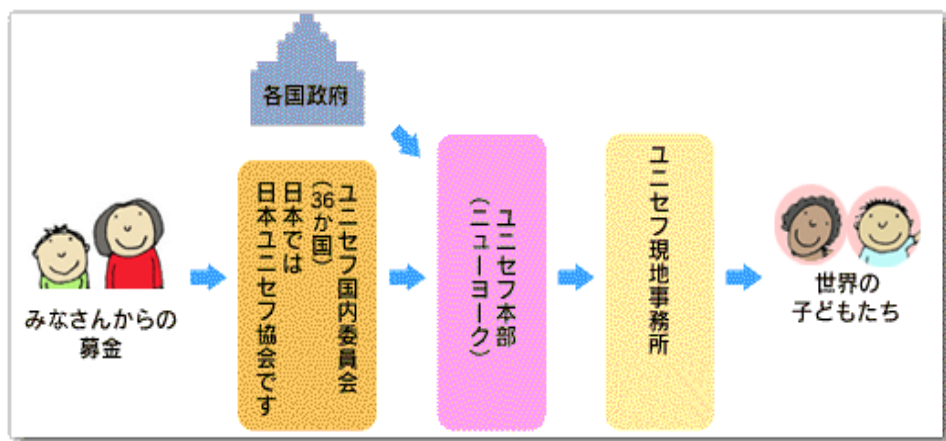
ユニセフ募金のゆくえ

「ユニセフ募金にご協力をお願いしまーす！」

こんな声を聞いたり、お店にあるユニセフ募金箱を見たり、もしかすると、募金に協力して下さったことがあるかもしれません。

ユニセフは、みなさんからの募金なくしては活動することができません。では、みなさんからの募金はどのようにして世界の子どもたちのもとへいくのでしょうか。

みなさんからの募金は日本ユニセフ協会にあつまり、日本ユニセフ協会からニューヨークにあるユニセフ本部に送金されます。ユニセフ本部は、各国の子どもの状況をみて、ユニセフ現地事務所にお金をおくり、各国政府と協力して、世界150以上の国と地域で子どもたちのための活動に使っています。



みなさんや各国の政府からおくられた募金や資金の配分は、次の3つをもとに決められています。

1. 5歳になる前に命をうしなう子どもの割合
2. ひとりあたりのGNI（国民総所得）の額
（つまり、その国が1年間にうみだしている富を国民の数でわった金額のこと）
3. 18歳になる前の子どもの数

ユニセフは、どの地域の人びとや子どもがどんなことで困っているのか、どうすれば生活がよくなるかを調べます。それから予算をたててプロジェクトをつくり、急ぐ順に仕事をします。仕事をするときには、その国の政府やさまざまな団体、地元のボランティアなど多くの人々と協力します。

【資料提供：日本ユニセフ協会】

賛助会員募集中！ 日本ユニセフ協会賛助会員としてご協力ください

☆公益財団法人日本ユニセフ協会の賛助会費は、ユニセフ募金や寄付金と同様、寄付金控除の対象になります

日本ユニセフ協会賛助会員とは

日本国内での募金活動、広報およびアドボカシー（政策提言）活動を担う日本ユニセフ協会を、賛助会費によって支援していただく協力方法です。賛助会員になってニュースレターや資料を入手して理解を深め、世界の子どもの状況やユニセフと日本ユニセフ協会の活動を知り、できる範囲で行動する機会にさせていただくことができます。

賛助会員の種類と期間

- | | | |
|-----------|-------------------------------|--|
| 1. 一般賛助会員 | 1口 5,000円…個人の方が対象 | 有効期限はどちらも入会月から1年間で、退会のお申し出をいただくまで継続。期間は、1年ごとの更新。 |
| 2. 学生賛助会員 | 1口 2,000円…学生の方が対象 | |
| 3. 団体賛助会員 | 1口100,000円…企業、団体、有志のグループなどが対象 | |

これからの予定 (2月22日現在)

- ☆3月1日(金) 募金贈呈 (福岡県大木町立大溝小学校にて)
- ☆3月2日(土) ユニセフ募金活動&ユニセフ・カードとギフト頒布 (かんざき櫛田の市)
- ☆3月6日(水) ユニセフ出前授業 (ドリームパーク神崎市千代田東部小学校)
- ☆3月7日(木) 募金贈呈 (上峰町立上峰小学校)
- ☆3月8日(金) 募金贈呈 JA佐賀県女性組織協議会 (佐賀新聞社)
- ☆3月8日(金) ユニセフ出前授業 (鳥栖市弘堂国際学園)
- ☆3月9日(土) 佐賀県ユニセフ協会理事会評議員会 (佐賀新聞社)

☆3月10日(日)ユニセフ写真・講演会「3・11と子どもたち」(アバンセ4階第2研修室A)

①ユニセフ写真展 10:00~16:00

「EYE SEE TOHOKU」～子どもたちの目が見る被災地の今と明日～

②講演会 13:00~16:00

【東日本大震災における子どもの心のケア】講師:三ヶ田智弘氏

肥前精神医療センター・大分こども療育センター小児科医

【フクシマは、今・・・】講師:佐藤一夫氏

福島県ユニセフ協会常務理事・事務局長 (福島県生協連専務理事)

※詳しくは、同封のチラシをご覧ください。

ご案内

3月11日(月) 13:00~3月15日(金) 12:00まで

ユニセフ写真展「EYE SEE TOHOKU」～子どもたちの目が見る被災地の今と明日～ (県庁1階県民ホール)

※佐賀県主催「3.11東日本大震災復興写真展2013」および「みやぎの農業・農村復旧・復興パネル展」と同時開催。

- ☆3月11日(月) 書き損じはがき等贈呈 (佐賀市立諸富北小学校)
- ☆3月18日(月) ユニセフ学習 佐賀県立ろう学校中学部 (事務所)
- ☆5月3日(金・祝) ユニセフ募金活動&ユニセフ・カードとギフト頒布 (有田陶器市会場)

ユニセフ・チャリティーバザー ～紛争や自然災害から子どもたちを守ろう！～

☆5月19日(日) 第20回ユニセフ・チャリティーバザー ※詳しくは、同封のチラシをご覧ください。

毎年行っているユニセフ・チャリティーバザーは今年で第20回目を迎えます。

現在ユニセフは、緊急募金をお願いしている国々はもちろん、本来なら同様の注目が寄せられなければならないほどの状況にありながら、メディアではあまり報じられていないチャド、コロンビア、エチオピア、フィリピン、ソマリア、イエメンなどの国々への支援も訴えています。

紛争や自然災害に見舞われている子どもたちを守るため、バザー売上げは全額ユニセフ募金とさせていただきます。

そこで、まずはバザー品ご提供のご協力をお願い致します！

✿日用雑貨品、タオル類、陶磁器、寝具類、洗剤類 等

(以上は未使用のもの)

✿食料品 (賞味・消費期限内のもの)

✿その他

※申し訳ございませんが、送料はご負担いただいております。

お問い合わせは佐賀県ユニセフ協会まで。

バザー品
大募集！





ご支援 ありがとうございます

佐賀リハビリテーション病院様 トヨタ紡織九州株式会社様 弘堂国際学園様
ユニセフを支援する会母子草様 浄土真宗本願寺派佐賀教区少年連盟様 (株)みうつか様
日本バプテスト連盟佐賀キリスト協会様 佐賀市文化会館様 団野法律事務所様
TSUTAYA鍋島店様 バレエ&ビヨンド様 ようどう館佐賀校様 ようどう館大和校様
川崎自工様 あけぼの様 モトシマ様 国府団地花みずき様 ぬくもりの会様
佐賀シール工業株式会社様 ミックスコスメティックプラザ城北様 道海島小学校様
城西中学校様 豊原小学校様 三日月小学校様 佐賀保育園様 菖蒲御膳様
ホテルニューオータニ佐賀様 美容室ニューモア様 EXCEL Fido様 サンシャレー様
エクセルウエンズ様 Hair&Make EXCEL様 ヘアー&フェイス ドゥース様 三瀬そば様
いっせい麺処様 風羅坊様 (株)北島様 合資会社東洋館様 えんぴつ館様
村岡屋卸本町店様 村岡屋駅南店様 佐賀空港ターミナル様 矢山クリニック様
レストランカンフォーラ様 ホンダパーツ西南佐賀営業所様 恵比寿鍼灸整骨院様
モンテカルロ佐賀医大前店様 モンテカルロ太陽本庄店様 栗原内科消化器科医院様
いちばら耳鼻咽喉科クリニック様 みねまつ歯科様 ふくしま薬局通小路店様
内田整体院様 多布施クリニック様 山小屋ラーメン様 山小屋ラーメン川副店様
アルタ開成店様 アルタ高木瀬店様 基里小学校様 ファミリーマート大和尼寺店様
トヨタ紡織九州(株)レッドトルネード様

千代田東部小学校様 門司歯科様 (独)高齢・障害・求職者雇用支援機構様
矢ヶ部小学校様 峰松歯科様 佐賀大学医学部様 ヘルスランチあららぎ様
武田健康堂薬局水ヶ江店様 富安造園様 副島病院様 グランデはがくれ様
佐賀大学理工学部様 新栄公民館様 (株)サニーハウス様 三田川小学校様
佐賀県高等学校家庭クラブ連盟様 カイセイ薬局伊万里駅前店様 佐賀新聞社編集局様
佐賀大学秘書室様 大塚製薬株式会社佐賀工場様 武井電機様 千代田中部小学校様
佐賀玉屋様 ゆめタウン佐賀様 バニーズ三日月様 イオンモール佐賀大和店様
ベスト電器佐賀大和店様 ホームワイド佐賀大和店様 スーパーモリナガ様
イオンスーパーセンター佐賀店様 イオン上峰ショッピングセンター様
ホームセンターユートク鹿島店様 ララベル様 (2012年11月11日～2013年2月22日)

☆ いろいろな形でのご支援・ご協力に心から感謝申し上げます。
個人の皆さま方からもたくさんのご支援ご協力をいただいておりますが、
この欄でのご紹介は学校・企業・団体様等のみにさせていただきます。



みなさまの募金が支えるユニセフの活動

募金のできる支援例2013：2013年1月現在の価格 1米ドル=79円で計算（小数点以下切り上げ）



6円(¢7) 急性の下痢による脱水症から子どもの命を守る経口補水塩1袋
安全な水と混ぜて使用する



12円(¢15) ポリオ経口ワクチン1回分



790円(\$10) マラリアを運ぶ蚊から家族を守るための、効果が長期間にわたって
持続する殺虫剤処理をほどこした蚊帳3張。アフリカでは、マラリア
により30秒に1人の割合で子どもが命を落としている

unwish の 仲間たち!

～佐賀市立城北中学校生徒会人権委員会～



私たちは佐賀市立城北中学校の人権委員会のメンバーです。昨年は10月14日に佐賀市立図書館で行われた「ユニセフのつどい」にボランティアとして参加しました。

事前のマスコミへの広報をはじめ、当日は会場の設営などの力仕事から、来場者の案内や後片付けなどに携わりました。また、その時に会場横で同時開催されていた「3・11の子どもたち～ユニセフ東日本大震災写真展～」にもメンバーで足を運びました。

まだまだ復興に時間がかかっている被災地の傷跡を見て‘自分たちにできる精一杯の事をやっていこう’とメンバーで誓い合いました。

そして、このボランティアで感じたことなどを自分たちでパワーポイントにまとめ、校内で行われる「人権集会」の場で全校生徒に伝えました。

12月には「第34回ユニセフ ハンド・イン・ハンド」にも参加させていただきました。イオンモール佐賀大和の店舗前に立った時は、本当に寒かったのですが‘アフリカの子どもたちに生きるチャンスを与えるため、ワクチン募金をお願いします!’と大きな声で呼びかけると小さな子どもが小銭を持って走ってきてくれました。中には「一度、通り過ぎちゃったけど、なんだか無視できなくて。」と戻ってきてくれる人もいて、募金活動を終える頃には本当に心が温かくなりました。

2012年は、佐賀県ユニセフ協会と一緒に活動して、自分たちが知らないことがたくさんあること、自分たちにも出来ることがあることを改めて感じました。これからは後輩たちにもユニセフで学んだことを伝えていき、私たち自身も中学を卒業した後も、自分たちに出来ることを探しながら世界のことをもっと学んでいきたいと思います。

(取材 高原)